

66. 失語症の自主活動を通じた 社会参加促進に必要な支援方法に関する調査

喜々津裕美（長崎県県央保健所）

吉田 悦子（（旧）長崎県県央保健所、（新）長崎県五島保健所上五島支所）

高野由紀子（（旧）長崎県県央保健所、（新）長崎県こども・女性・障害者支援センター）

田中 美紀（長崎リハビリテーション学院）

山田貴美子（ろうけん西諫早）

野中 慧（（旧）ろうけん西諫早、（新）西諫早病院訪問リハビリ）

長崎県言語聴覚士会

【 目 的 】

失語症とは「話す」「聞く」「読む」「書く」機能の障害です。平成11年度の東京都による実態調査では、何らかの理由で高次脳機能障害となった方のうち56.9%に失語症を認めました。失語症の症状は慢性化し外見上明らかでないため、周囲の理解が得られず社会参加が困難である現状が繰り返し指摘されています。本研究の目的は当事者の自主活動を通じた社会参加促進に必要な支援方法について調査・検討することです。

【 対 象 】

- ・失語症友の会「逢待会」に参加している失語症者9名とその家族3名
- ・失語症者の内訳

【 方法及び実施内容 】

	年齢	性別	発症年齢 (経過年)	発症前の 職業	性格	身障症状	失語症の症状					ADL面	
							話す	聞く	読む	書く	その他	移動	食事
1	61歳	男	51歳 (10年)	調理師	内向的	右肩麻痺、杖 歩行	発音不明瞭、短い 文章は可能	日常生活レベ ルは可能	ほぼ可能	ほぼ可能	特になし	介助なし	スプーン
2	65歳	女	50歳 (15年)	飲食店経営	恥ずかしがり	右肩麻痺、杖 歩行	発音不明瞭、短い 文章は可能	日常生活レベ ルは可能	ほぼ可能	ほぼ可能	流涎が多い	介助なし	スプーン
3	61歳	男	39歳 (22年)	大工	恥ずかしがり	右肩麻痺、杖 歩行	日常生活は可能	日常生活レベ ルは可能	ほぼ可能	ほぼ可能	吃様症状あり	介助なし	箸
4	61歳	男	43歳 (18年)	大工	社交的	右肩麻痺、杖 歩行	日常生活は可能	難聴あり、1対 1では可能	ほぼ可能	ほぼ可能	腰痛ヘルニアで入 退院が多い	介助なし	スプーン
5	71歳	男	66歳 (5年)	事務官	責任感が強い	麻痺なし、独 歩	日常生活は可能	日常生活レベ ルは可能	ほぼ可能	何を書いてよいか わからない	心臓病あり、7 回の脳梗塞	介助なし	箸
6	57歳	男	40歳 (17年)	造園業	真面目	左片麻痺、独 歩	言いたい事がまと まわない	短い文章は 可能	ほぼ可能	何を書いてよいか わからない	高次脳機能 障害あり	介助なし	箸
7	61歳	男	56歳 (5年)	会社経営	ユーモアがある	右片麻痺、車 いす	発音はあるが、会 話は不可	理解不可能	不可能	不可能	認知症あり	介助必 要	介助必 要
8	75歳	男	67歳 (8年)	自衛官	内向的	麻痺なし、独 歩	日常生活は可能	日常生活レベ ルは可能	ほぼ可能	内容に難あり だが、可能	特になし	介助なし	箸
9	61歳	男	59歳 (2年)	営業担当	内向的	右片麻痺、杖 歩行	単音の復唱は可能	日常生活レベ ルは可能	ほぼ可能	名前、住所は 可能	感覚過敏あり	介助なし	スプーン

1) 外出活動調査

目的：社会参加促進のための機会を得て、実際の外出活動を経験し、その中から出てくる意見を拾い上げるため。

日付	平成20年12月5日
内容	みかん狩り(ジャンボタクシーを借り上げ移動した)
参加人数	会員7名 家族3名 スタッフ3名
言語面の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・「手伝って」と声を掛け合っていた。 ・吃様症状がほとんど出ず、スムーズに話せた。
その他の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・麻痺があり、ハサミが使いにくかった。 ・疲れてしまい、帰りの車中で発作があった。 ・麻痺があるため、コンテナに座って姿勢の安定を図るなどの工夫が見られた。 ・車いすの方は参加できなかった。 ・早く取り終わると、他会員のを手伝っていた。 ・畑の土や草は柔らかく、麻痺がある場合歩きにくい。 ・道路から畑へ降りる時に全員介助が必要だった。

日付	平成21年1月19日
内容	長崎県美術館見学(JR、バスを利用)
参加人数	会員6名 家族3名 スタッフ4名
言語面の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・駅で往復のどちらの切符を出せば良いかわからなくなった。 ・店員に話しかけたが気付かず、あきらめてしまった。 ・切符の購入など、当会の仲間に頼むことができていた。 ・学芸員に直接話しかけ、質問をしていた。
その他の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・駅にエレベーターがないため、階段を使用し、時間がかかった。 ・バスを降りる際、料金箱と座席の間が狭く、足を引っかける事が多かった。 ・昼食時、薬の飲み忘れが多かった。 ・美術館で車いす利用時に、事前の予約と手続きが必要だった。 ・歩行スピードが遅いことを気にして、先周りに行動するため危険だった。 ・美術館を自由に散策し、表情も良かった。



日付	平成21年5月11日
内容	大村競艇観戦
参加人数	会員7名 家族3名 スタッフ3名
言語面の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・買い方がわからない時、係の方に聞けなかった。 ・新しいスタッフに緊張し、会話が少なかった。
その他の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターを利用する時に、乗るタイミングがあわせにくい。 ・予約席が階段になっており、移動が不自由だった。 ・集合場所、集合時間の間違いが多かった。 ・エレベーターがなく、車いすの方は別館を利用した。 ・競艇を楽しみたい方、散策したい方に分かれて思い思いの行動がとれた。 ・家族の方がとても楽しんでた。 ・あまり行く所ではないため、貴重な経験ができたと感じがあった。



日付	平成21年9月14日・15日
内容	親睦旅行(島原市・雲仙市)(借り上げバスを利用)
参加人数	会員7名 家族2名 スタッフ5名
言語面の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の楽しかった所を発表しあったが、質問を忘れてしまったり、主旨を理解できない方がいた。 ・全員表情が良く、昔話が多く出た。
その他の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・疲れが溜まり、2日目に疲れがひびいた。 ・疲れが出てくると転倒しやすく、歩行が不安定になりやすい。 ・車いすがパンクしてしまった。 ・車いすで全介助の方は、参加を見合わせた。 ・お風呂の介助を嫌がる方がおり、事前の説明が必要だった。 ・移動に時間がかかり、予定が押してしまった。 ・食事、お風呂など特に問題なくできた。 ・家族の方が、初めて介助をせずスタッフに甘えられたと感じがあった。 ・会の活動を続けることで、リラックスできる仲間となら旅行も行けると自信が持てた。



2) アンケート調査

目的：外出活動を困難にする要因を明らかにするため。また、外出時にコミュニケーションを助ける物が必要かを把握するために実施した。

回収方法：FAX もしくは 電話 回収数：6名(内、FAX 4名、電話2名)

【質問1】	外出時に困った事、迷った事を書いて下さい。
回答	話したいのに話せない。言葉が思うように出てこない。 咄嗟の質問に答えられない。 平仮名が読めない。 1対1で話すと理解できるが、3人以上だと理解できない。 自分では思うように話しているつもりだが、反対の事を言ってしまう。 言葉で、して欲しい事を頼めない。 バスの乗り方がわからない。 よくわからないし、人に頼めないのでエレベーターに一人で乗れない。
【質問2】	こういう物があつたらいいなと思う物を書いて下さい。
回答	困っている時は待つて欲しい。 はい/いいえで答えられる質問をして欲しい。 何事も無理強いしないで欲しい。
【質問以外の回答】	
回答	トイレにウォシュレットがない。 階段の手すりが片方にしかない。 階段を降りるのが怖い。 直線に我が道を行くのに迷いはない。 地域や方面の体育祭等で遊戯をやりたい。 ビールや酒を時には飲み交わしたい。

3) その他

リーフレット 2,000部	【配布先】 県内の言語聴覚士会、及びその関連施設や病院 管内の医療施設(急性期・回復期)の医療ソーシャルワーカー 【結果】 当会への問い合わせが増えた。 リーフレットの追加発注の問い合わせが5施設よりあった。
携帯用プレート 10部	試作し、実用に向けて試験使用中。
社会活動	現在作成中

【結果】

今回の活動により、次のことが明らかになりました。

まず外出活動においては、「会員同士」という条件があれば、「積極的な言動が増えた」「吃様症状が目立たず、流暢に話せることが増えた」などの良い結果が得られた反面、やはりスタッフの変更や公共施設のスタッフなど慣れない人とのコミュニケーションには障害を感じており、積極的に話せないという結果となりました。

次にアンケート結果ですが、これについては目的に沿った回答が得られませんでした。一つには質問の意図が明確でなかったことが上げられます。もう一つには、失語症という特徴から質問の理解が困難であったり、書くことに障害があるため思うように書けなかったことが上げられます。しかし、このアンケートから言語面の支援よりも精神的なバリアフリーを求めていることがわかりました。

以上の事以外で、当会の活動以外でも外出の機会が増えた、一人で運転して外出した、精神的に安定してきた、という思わぬ効果もありました。

これらの調査より、外出を困難にしている要因は、1つ目に失語症によるコミュニケーションの問題が挙げられます。失語症の症状は見た目ではわからず、円滑なコミュニケーション、仕事や家庭内での役割、自尊心や笑顔を奪い、それらのストレスから社会的孤立になりやすいと考えられます。2つ目に身体障害の有無です。身体に麻痺があると疲労しやすく、またトイレの介助など外出できにくい状態になります。3つ目に精神的ストレスです。脳血管障害になると一時的に仮性うつ状態に陥ることがあります。周囲が迷惑と思っていないか、話せない時の気持ちのコントロールができないなど、家族でさえも気付かないストレスがあります。今回、車いすの方は参加を見合わせる事が多く、独歩もしくは杖歩行の方と比較すると、外出においては家族のストレスも考えなければならない事もわかりました。

【 考 察 】

当初、失語症者から発信できる物を作成し役立てようと考えていましたが、試作品を試験使用中で今回の報告には間に合いませんでした。身体障害者の方の補装具と同じような自助具の活用を考えていましたが、失語症は十人十色でありオーダーメイドの自助具の検討が課題となります。また、関係機関への失語症の啓発を目的とした社会活動(作品作り)については、年6回の活動では完成できませんでした。今後は活動頻度の見直し、作品を完成させ、次年度の啓発活動に活かします。

厚生労働省の調査から、言語聴覚士は失語症者の退院後の把握ができていないと指摘があり、失語症友の会への参加など社会参加の機会を作り利用する考え方を、治療の流れに加えることが必要となっています。改めて失語症の症状には長期的に支援していくことが大切であることが示されたと思います。

今回、活動を通して会員の意欲が向上し、積極的な社会参加に踏み出したことは大きな成果でした。当会の役割は同じ境遇の仲間と集うこと(ピュア・カウンセリング効果)につきると思います。医療ではできない支援を友の会の活動で継続しながら、今回明らかになった課題を今後も検討していきたいと思います。

《経費使途明細》

項目	内訳	支出	備考
交通費	タクシー代(みかん狩り)	9,800 円	
	借上バス(美術館)	10,420 円	
	貸切バス(親睦旅行)	129,340 円	
宿泊費	親睦旅行	35,100 円	170,100 円の内、135,600 円は一部負担金で賄った
印刷代	失語症パンフレット代	103,950 円	
保険代	年間活動	6,300 円	
	美術館	6,560 円	
	親睦旅行	3,300 円	
拝観入場料	美術館	2,650 円	
	親睦旅行	36,280 円	
需用費	食事代	14,700 円	
	食品代	7,205 円	
	看板等作成費	134,245 円	
役務費	郵送代	150 円	
合 計		500,000 円	